

1. 「徴用工訴訟」と「日韓請求権協定」

(1) 日韓の対立

- ① 「輸出管理規制」強化と「ホワイト国」からの排除
- ② 韓国政府 GSOMIA（軍事情報包括保護協定）破棄
- ③ ロウソク集会の特質と文在寅大統領の思考  
→ 「慰安婦合意」の反故、「日韓請求権協定」無視

2. 第一ステージから第二ステージへ

- (1) 「輸出管理強化」と「ホワイト国」からの排除は、第一ステージ
- (2) 文在寅大統領、今回の日韓対立を「第二の独立運動」と認識
- (3) 第二ステージ、韓国側の歴史認識の誤りの匡正

3. 韓国の歴史認識

- (1) 「徴用工問題」→『朝鮮農村の人口排出機構』（慶尚南道蔚山郡蔚山邑達里）の実態
- (2) 慰安婦問題
- (3) 竹島問題（安龍福の号牌）
  - ① 1696年6月、「通政大夫」
  - ② 偽造号牌
  - ③ 江戸幕府「渡海禁止」（1696年1月）、安龍福の密航（1696年6月）
- (4) 共通点、被害者？の証言を論拠に、市民団体が「歴史問題」として政治活動

4. 韓国の対外広報

- (1) 歴史問題を二国間の問題と把握→正当性を第三国に訴え、自国の立場を有利に
- (2) 韓国政府は2005年に国策の研究機関（東北アジア歴史財団2006年発足）
- (3) 持続的活動、竹島問題、歴史教科書問題、慰安婦問題、東海併記、徴用工問題

5. 日本の対応

- (1) 第一ステージのままでは、窮鼠猫を囓む
- (2) 巨費を投じた国際広報→韓国側との宣伝合戦は消耗戦
- (3) 「慰安婦問題」と「日本海呼称問題」の事例、日本の課題
- (4) 韓国に司令塔の役割を果たす政策提言機関、海外では韓国系米国人らの協力体制
- (5) 不都合な研究は、韓国内には入っていない
- (6) 無駄な鉄砲玉の乱射→捏造された韓国側の歴史認識を一発で仕留める狙撃手